

4. 地区の課題整理

■ 対象地区周辺を取り巻く機会、脅威(外部要因)の整理

(1) 農業の現況

	機会	脅威
持続可能な農業	交流人口が増加 <ul style="list-style-type: none"> 近年、奈良県の観光客数は増加傾向にある。 明日香村・橿原市と合わせて訪れる人が多い。 	担い手の不足 <ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子高齢化の進行 10~20代の定住意向が低い。 農業従事者の減少、高齢化
魅力的な農業	「農」に対する関心が向上 <ul style="list-style-type: none"> 新鮮な農産物に対するニーズの高まり (図参照) 自然、文化、交流、体験等の魅力 (図参照) 	持続的な農業経営への転換が必要 <ul style="list-style-type: none"> 農業をとりまく環境の厳しさ (図2参照) 他地域も農産物などを活かした新たな価値の創出を推進 (図3参照)

(2) まち・地域の現況

	機会	脅威
まち・地域の魅力向上	交流人口が増加 <ul style="list-style-type: none"> 近年、奈良県の観光客数は増加傾向にある。 明日香村・橿原市と合わせて訪れる人が多い。 	観光を通じた地域の活性化が必要 <ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子高齢化の進行 10~20代の定住意向が低い。
広域連携による観光振興	周辺地域との一体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> 飛鳥地域の周遊に関する計画が進められている。 本地区近傍に明日香村が宿泊施設を誘致する計画がある。 	高取町らしい魅力の向上が必要 <ul style="list-style-type: none"> 地方創生に向け、他自治体も地域資源等を活かしたまちづくりを加速している。

■ 農業の機会・脅威に関連した参考データ (農林水産省「平成27年度食料・農業・農村白書」より抜粋)

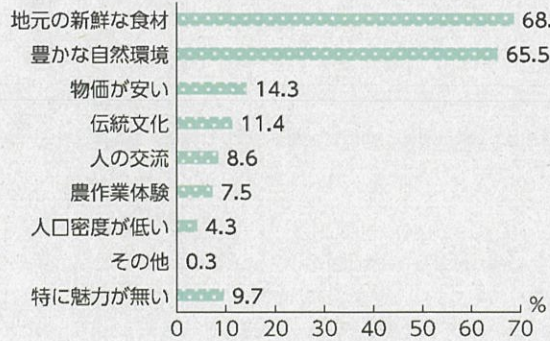


図1. 農山漁村の魅力

* 消費者を対象にした調査では、「地元の新鮮な食材」、「豊かな自然環境」に魅力を感じる割合が高く、若い世代ほど体験に強い興味を寄せるなど農業に対する関心の高さがうかがえる。

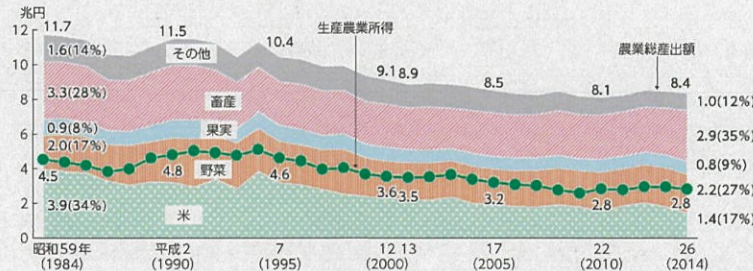


図2. 農業総産出額および生産農業所得の推移

* 我が国の農業総産出額は、昭和59 (1984) 年に11兆7千億円に達したが、その後、減少傾向となり、平成13 (2001) 年以降は8兆円台で推移。生産農業所得は、平成25 (2013) 年の2兆9千億円から1千億円減少。これは、農業総産出額の減少に加え、物的経費の飼料費や光熱動力費等が増加したことが要因と考えられる。

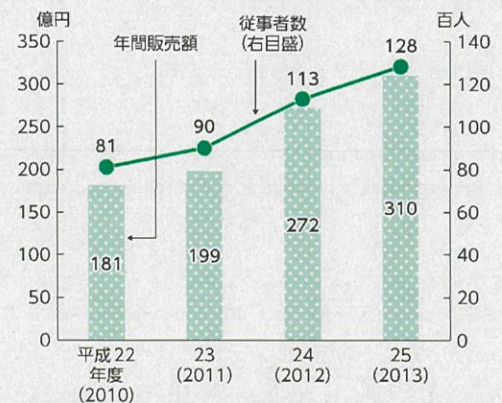


図3. 農家レストランの年間販売額及び従業者数の推移

* 農産物をそのまま出荷するのではなく、ニーズに対応した加工、直売などによる高付加価値化を図るほか、観光農園、農家レストランや農家民泊等の事業展開を図っている。

4. 地区の課題整理

■ SWOT分析による課題の整理(農業)

	<機会> <ul style="list-style-type: none"> 交流人口が増加 「農」に対する関心が向上 	<脅威> <ul style="list-style-type: none"> 担い手の不足 持続的な農業経営への転換が必要
<強み> <ul style="list-style-type: none"> 優良農地の存在 葉草プロジェクトの進行 新規就農者の増加 特徴的な田園景観 	<強みを活かして機会を勝ち取るためには> <ol style="list-style-type: none"> ①観光客や交流人口増加と併せて、高取の農をPR ②地域と観光客をつなぐ拠点の形成 	<強みを活かして脅威を機会に変えるには> <ol style="list-style-type: none"> ③多様な担い手の育成・確保
<弱み> <ul style="list-style-type: none"> 働く場・拠点の未整備 農のブランド力不足 農業従事者の減少 田園景観の阻害 	<弱みを補強して機会をつかむためには> <ol style="list-style-type: none"> ④良好な田園景観の維持・創出 ⑤高取農ブランドのイメージ構築 	<弱みから最悪のシナリオを避けるためには> <ol style="list-style-type: none"> ⑥魅力ある農業経営の確立

参考:各課題に見る住民・農業従事者の意見

抽出された課題	地域会議等における住民・農業従事者の意見
①観光客や交流人口増加と併せて、高取の農をPR	<ul style="list-style-type: none"> 高取町が農業が盛んであるというイメージが希薄である。
②地域と観光客をつなぐ拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> 農産物を販売する直売所が町内に少ない。
③多様な担い手の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者は、高取の農業にとって重要な役割を担っている。 新規就農者の支援体制を充実してほしい。
④良好な田園景観の維持	<ul style="list-style-type: none"> 古墳周辺の良好な田園景観は町原風景である。
⑤高取農ブランドのイメージ構築	<ul style="list-style-type: none"> 高取町の特産品がなく、ブランド力も低い。
⑥魅力ある農業経営の確立	<ul style="list-style-type: none"> 農業従事者の高齢化が進み、将来に不安がある。 農業しやすいしくみの構築が必要ではないか。

4. 地区の課題整理

■ SWOT分析による課題の整理(与楽古墳群)

	<機会> <ul style="list-style-type: none"> 交流人口が増加 周辺地域との一体的な取組 	<脅威> <ul style="list-style-type: none"> 観光を通じた地域の活性化が必要 高取町らしい魅力の向上が必要
<強み> <ul style="list-style-type: none"> 古墳群の国指定史跡化 認識しやすい立地 充実した地域資源 	<強みを活かして機会を勝ち取るためには> <ul style="list-style-type: none"> ①整備される与楽古墳群を活かして明日香地域からの誘客 	<強みを活かして脅威を機会に変えるには> <ul style="list-style-type: none"> ②地域資源を活かした地域の誇りの醸成
<弱み> <ul style="list-style-type: none"> 知名度不足・体制不足 アクセスが悪い 地域資源の未活用 	<弱みを補強して機会をつかむためには> <ul style="list-style-type: none"> ③奈良県、明日香地域を訪れる観光客への与楽古墳群のPR ④明日香地域からの案内情報の充実 	<弱みから最悪のシナリオを避けるためには> <ul style="list-style-type: none"> ⑤地域の運営・維持管理体制の構築 ⑥多様な世代が利用できるアクセス手段の構築

参考:各課題に見る住民・農業従事者の意見

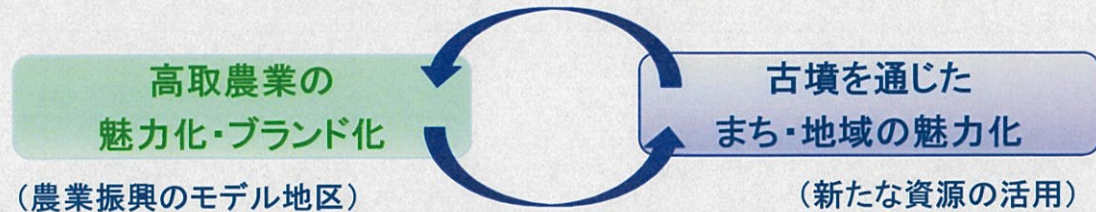
抽出された課題	地域会議等における住民・農業従事者の声
①整備される与楽古墳群を活かして明日香地域からの誘客	<ul style="list-style-type: none"> 知名度のある明日香村や橿原市等と連携してはどうか。
②地域資源を活かした地域の誇りの醸成	<ul style="list-style-type: none"> 町内の人でも与楽古墳群を知らない人が多い。
③奈良県、明日香地域を訪れる観光客への与楽古墳群のPR	<ul style="list-style-type: none"> 古墳の魅力を知ってもらう取組が必要ではないか。
④明日香地域からの案内情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> 小さな案内板しかなく、場所がわかりにくい。 説明をしてもらいながら案内してもらうとわかりやすい。
⑤地域の運営・維持管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 整備後の維持管理を誰が、どのようにするのは課題である。
⑥多様な世代が利用できるアクセス手段の構築	<ul style="list-style-type: none"> 道路に歩道がなく、駐車場等もないため、アクセスが困難である。

5. コンセプト、目標

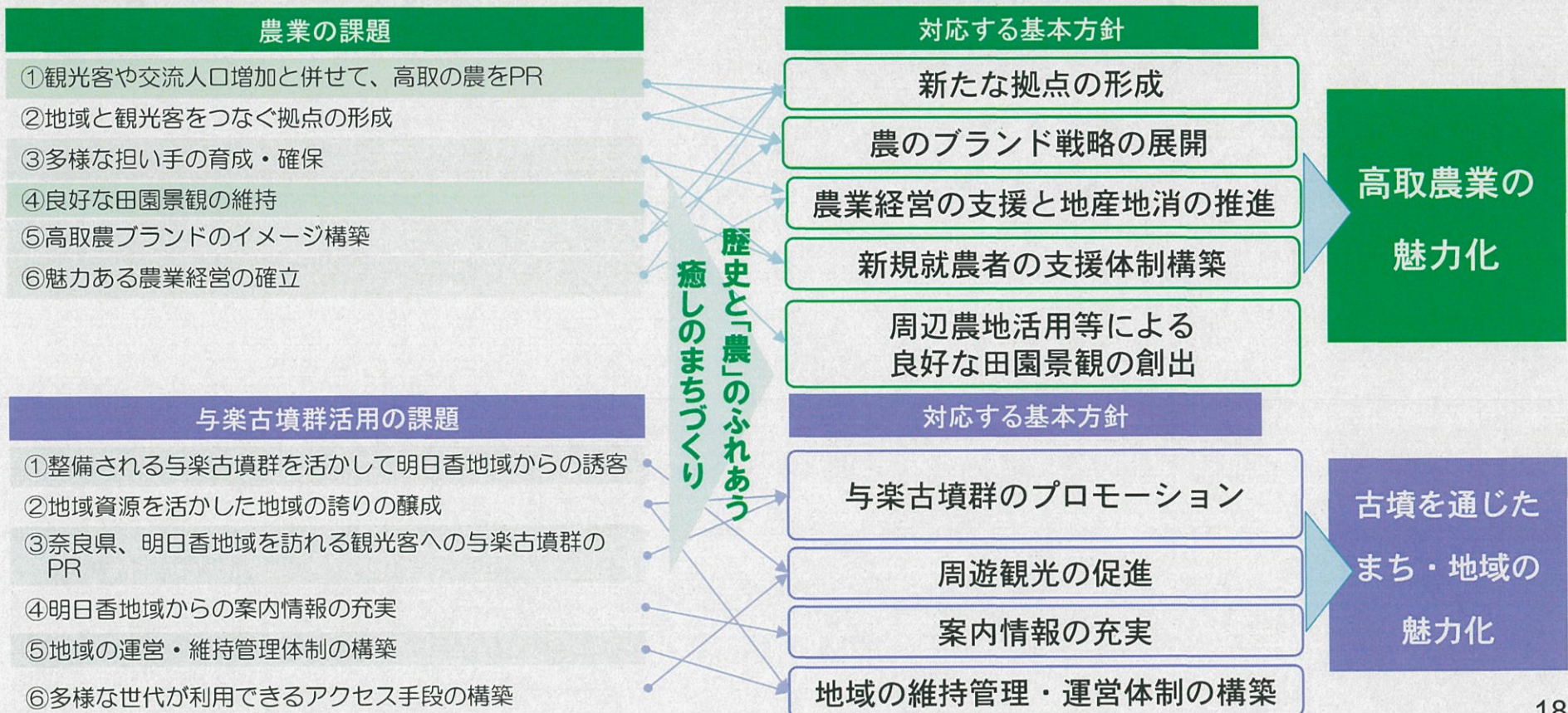
<コンセプト>

歴史と「農」のふれあう癒しのまちづくり

与楽古墳群の公園整備を契機に、来訪者の増加と住みやすいまちづくりの推進と、高取の自然の恵みである「農」の振興を通じた、心と体の癒しを感じるまちづくりを進めます。



6. 基本方針



7. 基本となる取組

■ 基本方向に基づく施策

心と体の癒しを感じるまちづくりを具体化するための施策を以下に示す。

	対応する基本方針	基本となる取組
高取農業の 魅力化	・ 新たな拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物販売所の新設、有効活用 ・ 地域と連携した耕作放棄地の利活用
	・ 農のブランド戦略の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特産品の開発(例: 薬のまち等) ・ 高取町の農業の広報・PRの充実 ・ グリーンツーリズムメニューの開発 (野菜オーナー制、米作り体験、農家民泊など)
	・ 農業経営の支援と地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営農組合や農業従事者の経営安定に向けた支援強化 ・ 地産地消を推進するための町内への啓発や流通ルートの開拓
	・ 新規就農者の支援体制構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規就農者への支援強化(国・県・町の役割分担による支援)
	・ 周辺農地活用等による良好な田園景観の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古墳と農地が調和した、持続的な良好な景観形成
	対応する基本方針	基本となる取組
古墳を通じた まち・地域の 魅力化	・ 与楽古墳群のプロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古墳の周知、HPやパンフレット等による情報提供
	・ 周遊観光の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古墳群や貝吹山を結ぶ周遊ルート(フットパス)の整備、眺望を楽しむ拠点整備 ・ 橿原市や明日香村と連携した周遊観光の促進 ・ 公共交通、自動車、自転車、徒歩等の移動手段に応じたアクセス手段の強化
	・ 案内情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセス路を設定し、古墳への案内・誘導サインの整備 ・ 古墳を案内するツアーやガイド等のしくみづくり
	・ 地域の維持管理・運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民を中心とした古墳周辺整備後の維持管理・運営体制の構築